

14-17

子持 縦

五二九

五二九

ぼせをばりくこふあり
えともはしめはるか
ともしびの清えかてあるに
こほろぎのなきてまふ止み

夜雨

白居島

秋のかくこころか
よろこびの日は帰へずて
髪質の毛に手相を回さぬよ。

いづのわかゆるさとを思玉
小倉らほねくろしえおね
寒き花 草に 陰に
みねの雲をかれそめつ
川みつは長く流れ

竹得 夏白

杜南

唐詩 譯稿

三ノ花見寺



五二〇

秋

白居鳥

固れそまじりさ池水や

いまあか〜と日は沈ぐむ

風さ〜と吹きあきて

塙えびらの花もゆふとありぬ

下にち〜おの影ひとつ

秋を知る身せ、四十一

まじり

おれ新ら〜き春を迎へて甲十路かじろのこゑ声

をまきつ〜心とみれぬさすぞし

ば〜く節ふし行のすを指さ、とち糸いとも印いん小

印いんれあるおのもいとさ、いれ〜への

東あづま言こと人の夏なつ糸いと心の詞ことば子想こぞいを同じい

て掛か付けを極きまに達たつる。すすむに玉たまを瓦わらとな

すも亦また ~~あすれん~~ ~~ら~~ ~~の~~ ~~世よふ~~ ~~か~~ ~~の~~ ~~記しり~~ ~~て~~ ~~首うた~~

あすれんら〜の世よふかのの記しりて首うた

詞ことば宗むねの笑わらいと雲くもはんとろ。たふ流ながとて

よ。